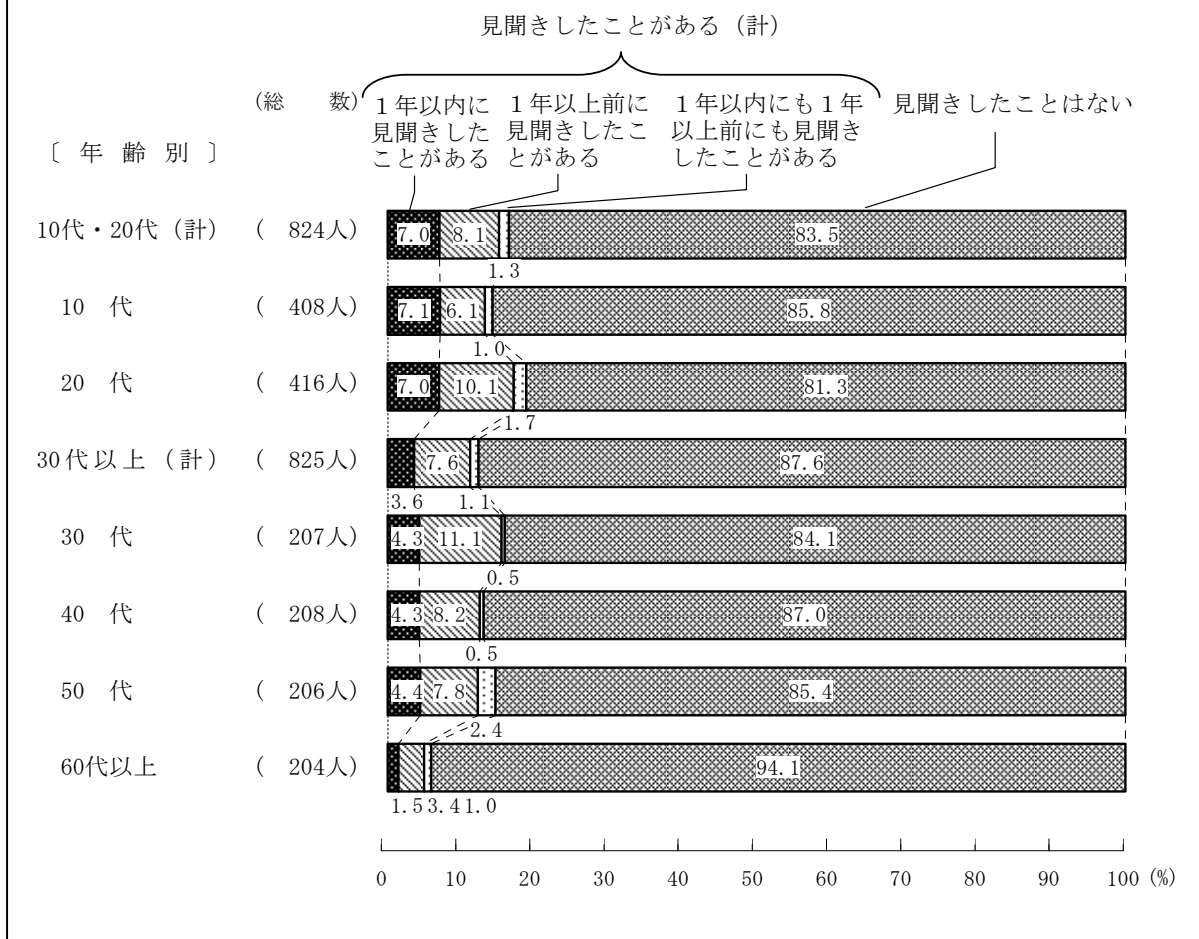


## 5. 薬物乱用の実態

### (1) 薬物乱用の見聞きの有無

Q17. ここ3年くらいの間に、あなたの周囲で薬物を使っている人がいるようなことを見たり聞いたりしたことがありますか。次の中から1つだけお選びください。

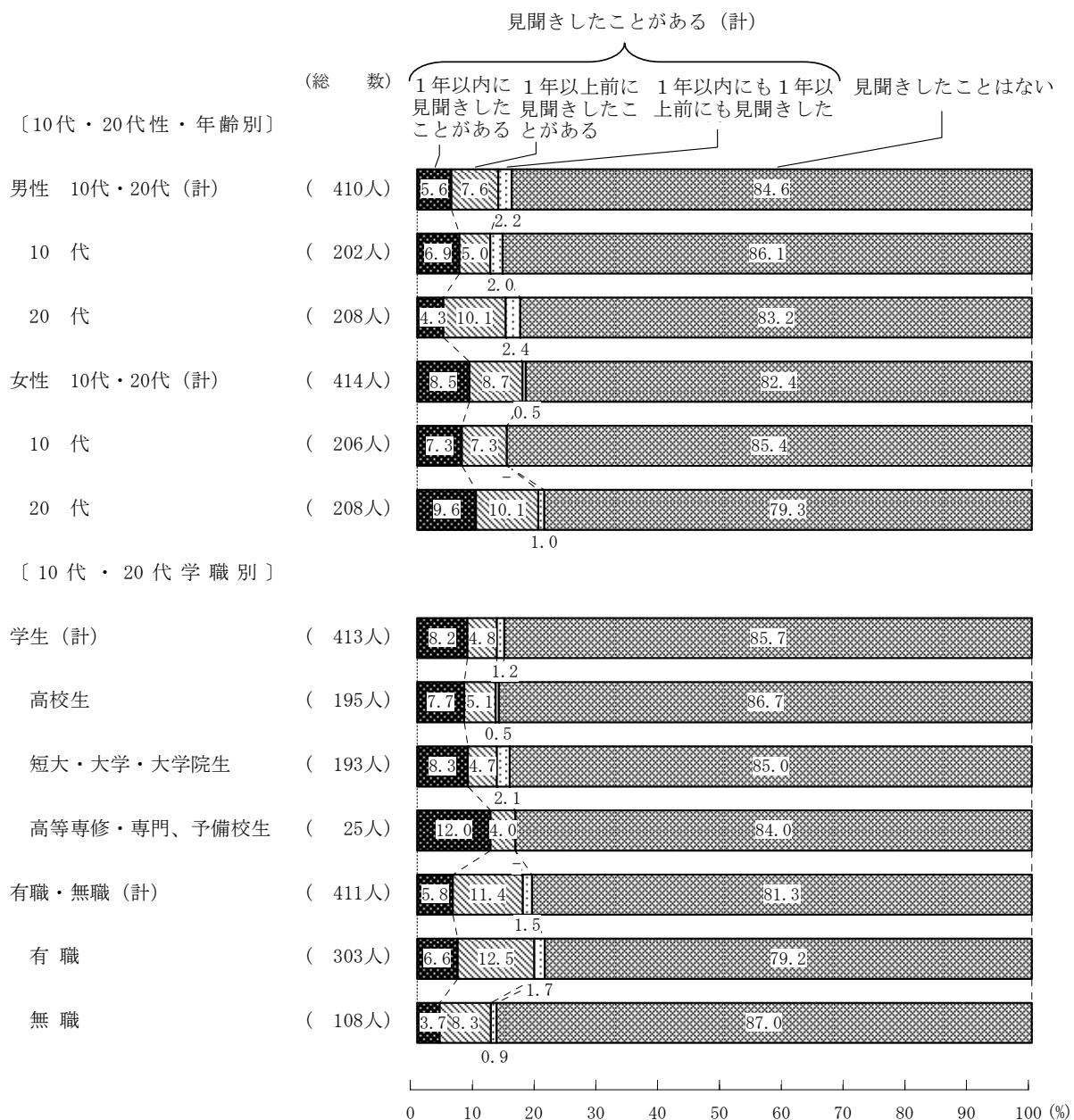


ここ3年くらいの間に、自分の周囲で薬物を使っている人がいるようなことを見聞きしたことがあるか聞いたところ、10代、20代、30代以上(計)ともに「見聞きしたことはない」(10代85.8%、20代81.3%、30代以上(計)87.6%)と答えた者の割合が8割以上となっているが、20代では「見聞きしたことがある(計)」(「1年以内に見聞きしたことがある」+「1年以上前に見聞きしたことがある」+「1年以内にも1年以上前にも見聞きしたことがある」)(18.8%)とする者の割合が他の年代に比べて高く、2割近くとなっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「見聞きしたことがある（計）」とする者の割合は女性20代（20.7%）で高く、約2割となっている。

10代・20代学職別にみると、「見聞きしたことがある（計）」とする者の割合は有職（20.8%）で高く、約2割となっている。

図表 2-2-5-1 薬物乱用の見聞きの有無



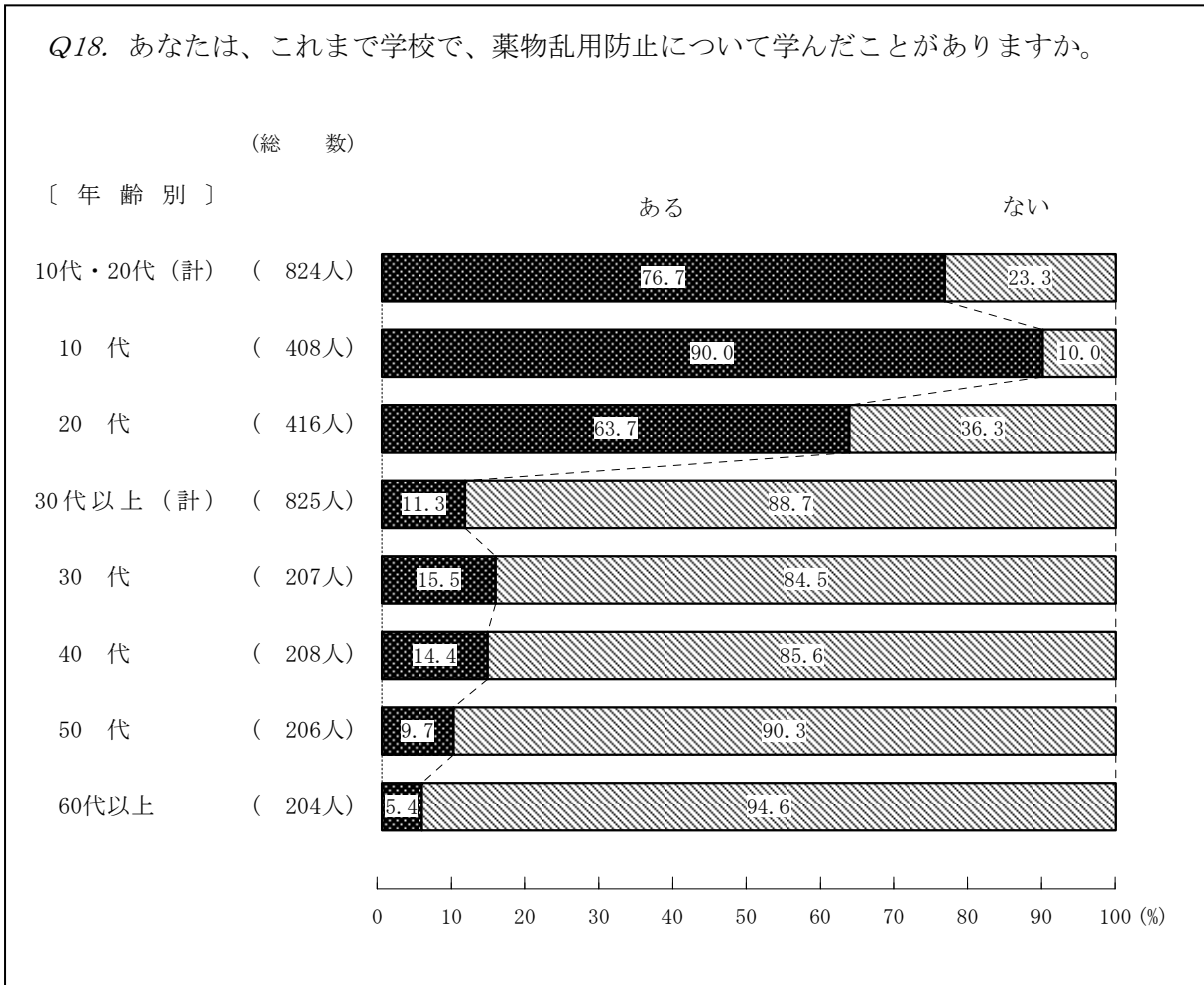
(参考) 平成 11 年調査「薬物乱用に関する世論調査」

(%)

	該当者数	見聞きしたことがある (小計)	1年以内に見聞きしたことがある	1年以上前に見聞きしたことがある	1年以内にも1年以上前にも見聞きしたことがある	見聞きしたことはない	答えたくない・わからない
[年齢]							
15～19歳	209	18.7	10.0	6.2	2.4	81.3	-
20歳以上 (小計)	3339	9.4	4.9	3.0	1.5	90.0	0.6
20～29歳	398	16.3	8.3	5.8	2.3	83.4	0.3
30～39歳	525	10.7	5.7	4.0	1.0	89.0	0.4
40～49歳	634	11.7	6.5	3.3	1.9	87.9	0.5
50～59歳	751	8.5	4.8	2.5	1.2	90.7	0.8
60～69歳	668	6.0	2.4	1.8	1.8	93.1	0.9
70歳以上	363	4.4	2.2	1.1	1.1	95.0	0.6

## 6. 学校での薬物乱用防止教育

### (1) 学校での薬物乱用防止学習の有無

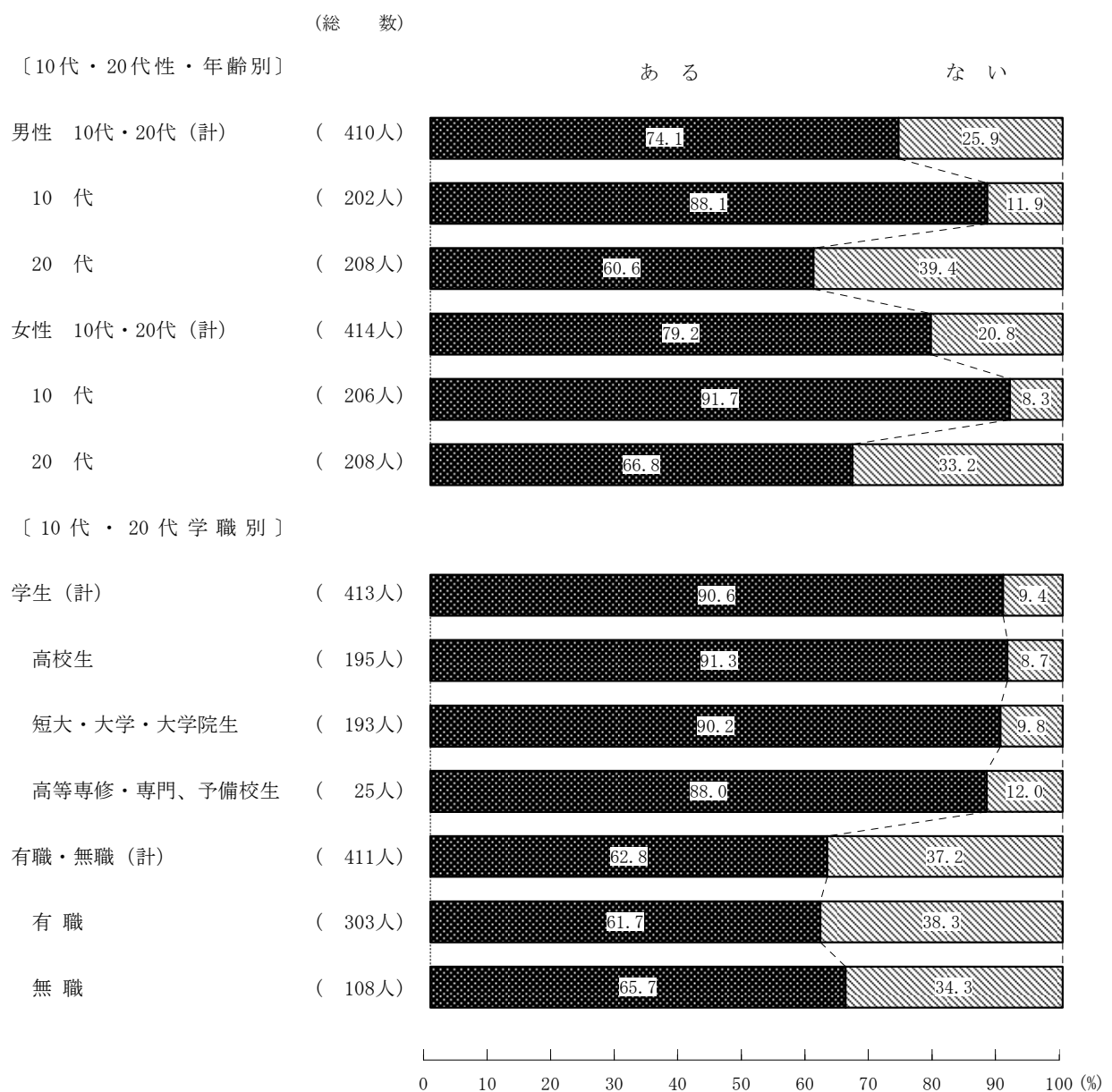


これまで学校で、薬物乱用防止について学んだことがあるか聞いたところ、「ある」と答えた者の割合は10代(90.0%)で9割、20代(63.7%)でも6割以上となっているが、30代以上(計)(11.3%)では1割台で、「ない」(88.7%)と答えた者の割合が9割近くとなっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「ある」と答えた者の割合は男性（74.1%）より女性（79.2%）で高くなっている。20代では男性（60.6%）と女性（66.8%）で約6ポイントの差がみられた。

10代・20代学職別にみると、「ある」と答えた者の割合は高校生（91.3%）、短大・大学・大学院生（90.2%）では9割以上を占めるが、有職（61.7%）、無職（65.7%）では6割台となっている。

図表 2-2-6-1 学校での薬物乱用防止学習の有無



(2) 学校で学んだ薬物の種類

Q19. 学校ではどのような種類の薬物について学びましたか。次の中から、学んだ薬物をいくつかもお選びください。複数の学校や学年で学んだことがある場合は、あてはまるものをすべてお選びください。(複数選択可)

(%)

n		覚せい剤 (エス、スピード、 シヤブ)	シンナー	乾燥大麻 (マリファナ)	コカイン	大麻樹脂 (ハシツシユ)	M D M A (エクスタシー)	ヘロイン	マジック・マッシュルーム	あへん
[ 年 齢 別 ]										
10代・20代 (計)	( 632人)	81.5	50.9	46.7	37.3	35.0	32.8	30.5	26.7	25.6
10 代	( 367人)	85.0	58.9	54.8	44.7	41.4	45.0	36.8	37.3	31.9
20 代	( 265人)	76.6	40.0	35.5	27.2	26.0	15.8	21.9	12.1	17.0
30代以上 (計)	( 93人)	65.6	38.7	32.3	20.4	26.9	9.7	21.5	10.8	20.4
30 代	( 32人)	59.4	31.3	31.3	12.5	18.8	6.3	12.5	3.1	9.4
40 代	( 30人)	73.3	50.0	33.3	20.0	26.7	6.7	16.7	10.0	26.7
50 代	( 20人)	65.0	35.0	35.0	20.0	35.0	20.0	25.0	20.0	5.0
60代以上	( 11人)	63.6	36.4	27.3	45.5	36.4	9.1	54.5	18.2	63.6

n		L S D	向精神薬 (ハルシオン等)	トルエン	M D A (ラブドラッグ)	ガスパン (ブタンガス)	5-MeO-DIPT (ゴメオ)	その他	覚えていない・わからない	回答計
[ 年 齢 別 ]										
10代・20代 (計)	( 632人)	15.2	10.3	7.0	6.8	5.5	0.6	-	14.9	427.4
10 代	( 367人)	20.2	13.4	8.4	9.8	7.4	0.8	-	12.0	507.6
20 代	( 265人)	8.3	6.0	4.9	2.6	3.0	0.4	-	18.9	316.2
30代以上 (計)	( 93人)	7.5	8.6	16.1	7.5	7.5	1.1	-	19.4	314.0
30 代	( 32人)	6.3	3.1	9.4	3.1	3.1	-	-	21.9	231.3
40 代	( 30人)	3.3	10.0	16.7	3.3	6.7	-	-	16.7	320.0
50 代	( 20人)	10.0	10.0	15.0	20.0	10.0	-	-	20.0	345.0
60代以上	( 11人)	18.2	18.2	36.4	9.1	18.2	9.1	-	18.2	481.8

学校ではどのような種類の薬物について学んだか聞いたところ、10代、20代、30代以上（計）ともに「覚せい剤（エス、スピード、シャブ）」（10代85.0%、20代76.6%、30代以上（計）65.6%）を挙げた者の割合が最も高く、10代では8割以上となっている。次いで、「シンナー」（10代58.9%、20代40.0%、30代以上（計）38.7%）、「乾燥大麻（マリファナ）」（10代54.8%、20代35.5%、30代以上（計）32.3%）の順で挙げられ、いずれも10代で割合が高くなっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「シンナー」(男性 46.7%、女性 54.9%)、「コカイン」(男性 32.6%、女性 41.8%)を挙げた者の割合は男性より女性で高く、それぞれ、約8ポイント、約9ポイントの差がみられた。

10代・20代学職別にみると、高校生は、ほぼすべての薬物で、学んだことがあると挙げた者の割合が他の層より高くなっている。「MDMA (エクスタシー)」を挙げた者の割合は高校生 (52.8%) で5割以上、短大・大学・大学院生 (39.7%) で約4割となっているが、有職 (12.8%)、無職 (18.3%) では1割台となっている。

図表 2-2-6-2 学校で学んだ薬物の種類

(%)

	n	覚せい剤 (シャブ)	シンナー	乾燥大麻 (マリファナ)	コカイン	大麻樹脂 (ハシツ)	MDMA (エクスタシー)	ヘロイン	マジック・マッシュ	あへん
[10代・20代性・年齢別]										
男性 10代・20代 (計)	( 304人)	81.6	46.7	47.0	32.6	37.2	31.9	28.0	28.3	23.4
10代	( 178人)	86.0	56.2	54.5	39.3	44.4	45.5	34.3	38.8	28.1
20代	( 126人)	75.4	33.3	36.5	23.0	27.0	12.7	19.0	13.5	16.7
女性 10代・20代 (計)	( 328人)	81.4	54.9	46.3	41.8	32.9	33.5	32.9	25.3	27.7
10代	( 189人)	84.1	61.4	55.0	49.7	38.6	44.4	39.2	36.0	35.4
20代	( 139人)	77.7	46.0	34.5	30.9	25.2	18.7	24.5	10.8	17.3
[10代・20代学職別]										
学 生 ( 計 )	( 374人)	85.8	59.6	55.3	44.9	42.8	45.5	37.7	34.8	31.6
高校生	( 178人)	87.1	66.3	60.1	52.2	46.6	52.8	44.4	42.1	37.6
短大・大学・大学院生	( 174人)	83.9	53.4	50.0	38.5	40.2	39.7	31.0	27.0	26.4
高等専修・専門・予備校生	( 22人)	90.9	54.5	59.1	36.4	31.8	31.8	36.4	36.4	22.7
有職・無職 (計)	( 258人)	75.2	38.4	34.1	26.4	23.6	14.3	20.2	15.1	17.1
有職	( 187人)	74.9	36.9	32.6	24.1	24.1	12.8	18.2	13.4	13.9
無職	( 71人)	76.1	42.3	38.0	32.4	22.5	18.3	25.4	19.7	25.4

	n	LS D	向精神薬 (ハルシオン等)	トルエン	MDA (ラブドラッグ)	ガスパン (ブタンガス)	5-LOP (ゴメオ)	その他	覚えていない・わか	回答計
[10代・20代性・年齢別]										
男性 10代・20代 (計)	( 304人)	14.8	10.5	7.9	5.6	7.2	1.0	-	15.5	419.1
10代	( 178人)	19.7	13.5	9.0	7.9	9.0	1.1	-	11.2	498.3
20代	( 126人)	7.9	6.3	6.3	2.4	4.8	0.8	-	21.4	307.1
女性 10代・20代 (計)	( 328人)	15.5	10.1	6.1	7.9	4.0	0.3	-	14.3	435.1
10代	( 189人)	20.6	13.2	7.9	11.6	5.8	0.5	-	12.7	516.4
20代	( 139人)	8.6	5.8	3.6	2.9	1.4	-	-	16.5	324.5
[10代・20代学職別]										
学 生 ( 計 )	( 374人)	20.3	15.5	9.6	9.9	7.8	1.1	-	11.5	513.6
高校生	( 178人)	22.5	20.2	11.8	11.8	10.7	1.7	-	11.2	579.2
短大・大学・大学院生	( 174人)	19.5	11.5	8.0	8.0	5.2	0.6	-	12.6	455.7
高等専修・専門・予備校生	( 22人)	9.1	9.1	4.5	9.1	4.5	-	-	4.5	440.9
有職・無職 (計)	( 258人)	7.8	2.7	3.1	2.3	2.3	-	-	19.8	302.3
有職	( 187人)	7.5	1.6	3.2	2.1	2.7	-	-	21.4	289.3
無職	( 71人)	8.5	5.6	2.8	2.8	1.4	-	-	15.5	336.6



学校で受けた薬物乱用防止学習の影響別にみると、多くの薬物が、影響を受けていると答えた者と受けていないと答えた者で回答率の差が大きくなっている。

図表 2-2-6-3 学校で学んだ薬物の種類

(%)

n		ブ ス ピ ー ド 、 エ シ ヤ	覚 せ い 剤 ( エ ス 、 シ ン ナ ー	乾 燥 大 麻 ( マ リ フ ア ナ	コ カ イ ン	大 麻 樹 脂 ( ハ シ ツ シ ユ)	M D M A ( エ ク ス タ シ ー	ヘ ロ イ ン	マ ジ ツ ク ・ マ ツ シ ユ ル ー ム	あ へ ん
[10代・20代学校で学んだ影響別]										
非常に影響を受けている	( 187人)	90.9	56.1	55.6	51.3	42.8	41.7	38.5	32.6	37.4
ある程度影響を受けている	( 334人)	82.6	54.8	48.5	36.8	34.1	33.5	30.8	28.1	23.4
あまり影響を受けていない	( 72人)	69.4	34.7	27.8	15.3	26.4	16.7	13.9	8.3	12.5
ほとんど影響を受けていない	( 39人)	48.7	23.1	23.1	15.4	20.5	12.8	20.5	20.5	12.8

n		L S D	向 精 神 薬 ( ハ ル シ オ ン 等)	ト ル エ ン	M D A ( ラ ブ ド ラ ツ グ)	ガ ス パ ン ( ブ タ ン ガ ス)	P 5 T ( ゴ メ オ M e O r D I)	そ の 他	覚 え て い な い ・ わ か ら な い	回 答 計
[10代・20代学校で学んだ影響別]										
非常に影響を受けている	( 187人)	18.2	14.4	11.8	10.2	7.0	1.6	-	6.4	516.6
ある程度影響を受けている	( 334人)	16.2	10.2	6.0	6.0	5.1	-	-	14.1	430.2
あまり影響を受けていない	( 72人)	8.3	2.8	1.4	2.8	4.2	-	-	25.0	269.4
ほとんど影響を受けていない	( 39人)	5.1	5.1	2.6	5.1	5.1	2.6	-	43.6	266.7

### (3) 学校での薬物乱用防止教育の指導者

Q20. 学校で、薬物乱用防止について教えてくれたのは誰ですか。次の中からあてはまる人をすべてお選びください。(複数選択可)

		(%)							
n		学校の先生	警察関係者、 麻薬取締官など	青少年育成や薬物乱用防止教育の専門家	医師や薬剤師などの医療専門家	回復した薬物体験者	その他	覚えていない・わからない	回答計
[ 年 齢 別 ]									
10代・20代 (計)	( 632人)	74.2	34.8	20.3	8.5	4.4	0.3	6.0	148.6
10 代	( 367人)	73.8	39.8	24.5	9.8	5.7	0.3	4.1	158.0
20 代	( 265人)	74.7	27.9	14.3	6.8	2.6	0.4	8.7	135.5
30代以上 (計)	( 93人)	67.7	26.9	15.1	12.9	8.6	2.2	14.0	147.3
30 代	( 32人)	75.0	9.4	3.1	3.1	-	-	18.8	109.4
40 代	( 30人)	70.0	36.7	16.7	16.7	6.7	3.3	13.3	163.3
50 代	( 20人)	55.0	45.0	30.0	20.0	25.0	-	5.0	180.0
60代以上	( 11人)	63.6	18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	18.2	154.5

学校で、薬物乱用防止について教えてくれたのは誰か聞いたところ、10代、20代、30代以上(計)ともに「学校の先生」(10代73.8%、20代74.7%、30代以上(計)67.7%)を挙げた者の割合が最も高い。次いで「警察関係者、麻薬取締官など」(10代39.8%、20代27.9%、30代以上(計)26.9%)、「青少年育成や薬物乱用防止教育の専門家」(10代24.5%、20代14.3%、30代15.1%)の順で続き、いずれも10代で割合が高くなっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「警察関係者、麻薬取締官など」を挙げた者の割合は男性10代（41.0%）で高く、4割以上となっている。

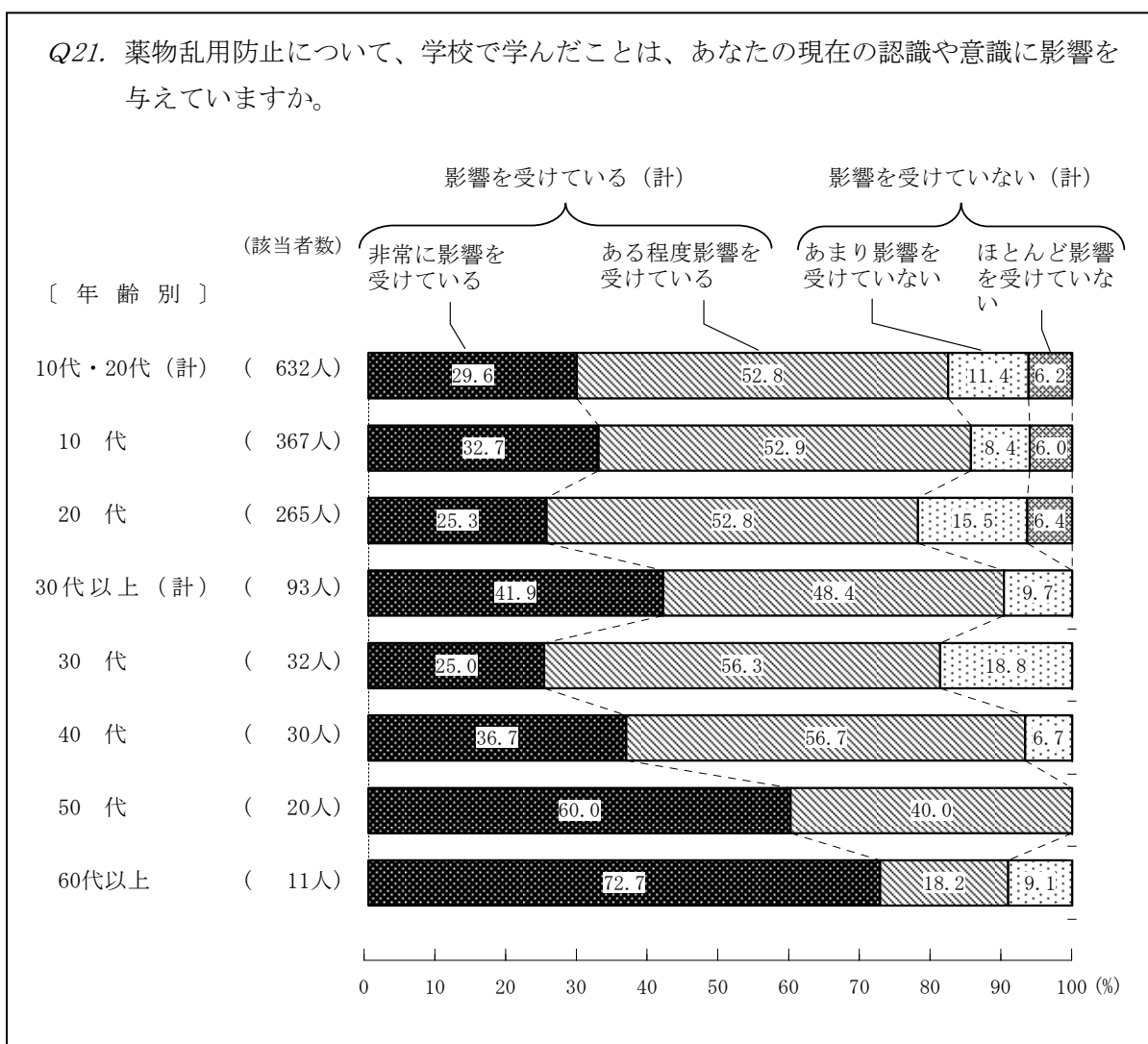
10代・20代学職別にみると、「学校の先生」を挙げた者の割合は高校生（79.8%）、短大・大学・大学院生（82.2%）で高く、8割前後となっている。

図表 2-2-6-4 学校での薬物乱用防止教育の指導者

(%)

n		学校の先生	警察関係者、麻薬取締官など	青少年育成や薬物乱用防止教育の専門家	医師や薬剤師などの医療専門家	回復した薬物体験者	その他	覚えていない・わからない	回答計	
〔10代・20代性・年齢別〕										
男性	10代・20代（計）	（304人）	73.0	32.9	21.4	9.2	3.0	0.3	6.3	146.1
	10代	（178人）	73.6	41.0	25.8	11.2	5.1	0.6	3.9	161.2
	20代	（126人）	72.2	21.4	15.1	6.3	-	-	9.5	124.6
女性	10代・20代（計）	（328人）	75.3	36.6	19.2	7.9	5.8	0.3	5.8	150.9
	10代	（189人）	74.1	38.6	23.3	8.5	6.3	-	4.2	155.0
	20代	（139人）	77.0	33.8	13.7	7.2	5.0	0.7	7.9	145.3
〔10代・20代学職別〕										
学 生	（ 計 ）	（374人）	79.1	36.6	22.5	9.6	4.8	0.5	3.5	156.7
	高校生	（178人）	79.8	34.3	22.5	10.7	6.7	0.6	3.4	157.9
	短大・大学・大学院生	（174人）	82.2	37.9	20.1	6.9	2.3	0.6	3.4	153.4
	高等専修・専門、予備校生	（22人）	50.0	45.5	40.9	22.7	9.1	-	4.5	172.7
有 職 ・ 無 職	（ 計 ）	（258人）	67.1	32.2	17.1	7.0	3.9	-	9.7	136.8
	有職	（187人）	69.0	34.2	14.4	8.0	4.3	-	9.1	139.0
	無職	（71人）	62.0	26.8	23.9	4.2	2.8	-	11.3	131.0

#### (4) 学校での薬物乱用防止教育の影響

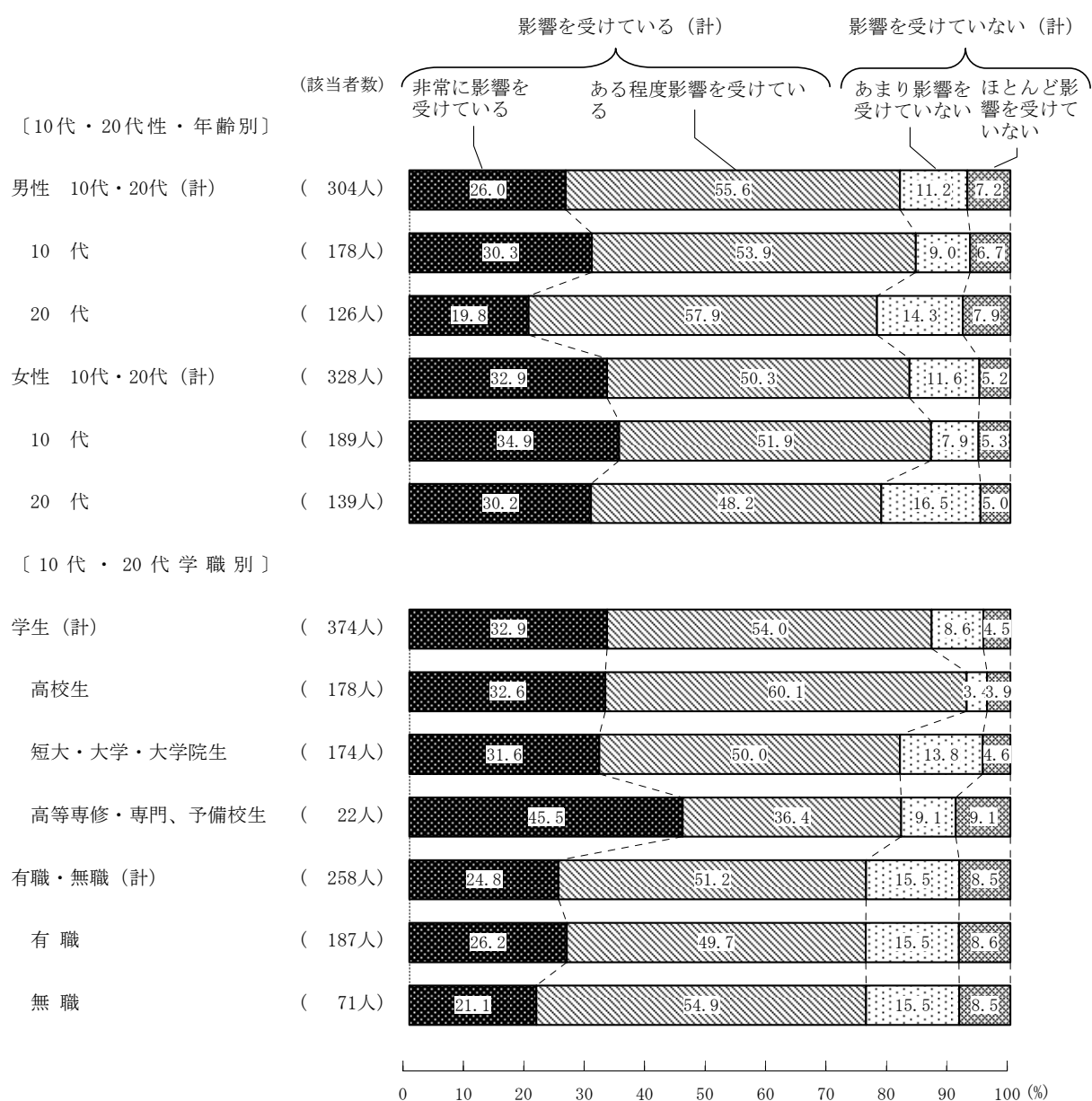


薬物乱用防止について、学校で学んだことは、現在の認識や意識に影響を与えているか聞いたところ、「影響を受けている (計)」(「非常に影響を受けている」+「ある程度影響を受けている」とする者の割合は10代(85.6%)で8割半ば、20代(78.1%)で8割近く、30代以上(計)(90.3%)で約9割となっている。30代以上(計)では「非常に影響を受けている」(41.9%)と答えた者の割合が10代、20代の若年層に比べて高く、4割以上となっている。また、20代では「影響を受けていない (計)」(「あまり影響を受けていない」+「ほとんど影響を受けていない」)(21.9%)とする者の割合が高く、2割以上となっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「非常に影響を受けている」と答えた者の割合は男性（26.0%）より女性（32.9%）で高く、約7ポイントの差がみられる。

10代・20代学職別にみると、「影響を受けている（計）」とする者の割合は高校生（92.7%）で高く、9割以上を占め、短大・大学・大学院生（81.6%）でも8割以上となっているが、有職（75.9%）、無職（76.1%）では7割台で、「影響を受けていない（計）」とする者の割合が有職（24.1%）、無職（23.9%）は約4人に1人となっている。

図表 2-2-6-5 学校での薬物乱用防止教育の影響



## 7. 学校以外での薬物乱用防止教育・啓発

### (1) 学校以外での薬物乱用防止教育・啓発の有無

Q22. あなたは、学校以外の場で、薬物乱用防止について、学んだり啓発を受けたことがありますか。学んだ場所や啓発の方法について、あてはまるものをいくつでもお選びください。（複数選択可）

(%)

n		テレビ、ラジオ	ポスター	パンフレット、リーフ	インターネット	新聞	家庭	本、雑誌	街頭キャンペーン	職場
[ 年齢別 ]										
10代・20代 (計)	( 824人)	33.3	23.1	14.7	13.0	11.4	11.0	7.6	7.2	3.6
10 代	( 408人)	30.9	23.8	15.7	9.8	10.8	13.7	6.1	7.6	2.9
20 代	( 416人)	35.6	22.4	13.7	16.1	12.0	8.4	9.1	6.7	4.3
30代以上 (計)	( 825人)	39.0	20.4	12.1	11.3	25.6	3.9	11.2	7.3	4.0
30 代	( 207人)	35.3	16.4	7.7	14.0	15.9	3.9	9.2	4.3	3.4
40 代	( 208人)	34.1	19.2	13.5	10.6	19.2	2.9	8.7	8.2	6.3
50 代	( 206人)	41.3	19.4	10.2	10.2	27.2	5.8	14.1	7.3	4.9
60代以上	( 204人)	45.6	26.5	17.2	10.3	40.2	2.9	12.7	9.3	1.5

n		自治体や警察などによる講習会	公民館、PTA、自治会などによる講習会	国や地方自治体などの広報誌	薬物乱用防止キャラバンカード	保健所、病院、医療機関などによる講習会	その他	受けたことはない	覚えていない・わからない	回答計
[ 年齢別 ]										
10代・20代 (計)	( 824人)	3.5	2.7	2.3	2.1	1.9	0.1	20.9	23.5	181.9
10 代	( 408人)	3.7	3.4	2.7	2.2	2.5	-	18.9	25.0	179.7
20 代	( 416人)	3.4	1.9	1.9	1.9	1.4	0.2	22.8	22.1	184.1
30代以上 (計)	( 825人)	2.7	2.8	11.0	1.7	2.1	0.4	36.8	11.3	203.4
30 代	( 207人)	1.4	0.5	3.4	0.5	1.4	-	39.1	15.0	171.5
40 代	( 208人)	1.0	3.4	9.1	0.5	0.5	-	37.0	13.9	188.0
50 代	( 206人)	3.9	4.9	11.7	1.0	2.4	0.5	36.4	6.3	207.3
60代以上	( 204人)	4.4	2.5	20.1	4.9	3.9	1.0	34.8	9.8	247.5

学校以外の場で、薬物乱用防止について、学んだり啓発を受けたことがあるか聞いたところ、10代、20代、30代以上（計）ともに「テレビ、ラジオ」（10代 30.9%、20代 35.6%、30代以上（計） 39.0%）を挙げた者の割合が最も高くなっている。次いで、10代、20代では「ポスター」（10代 23.8%、20代 22.4%）が、30代以上（計）では「新聞」（25.6%）が挙げられた。また、10代では「家庭」（13.7%）、20代では「インターネット」（16.1%）を挙げた者の割合が他の年代に比べて高くなっている。「受けたことはない」を挙げた者の割合は30代以上（計）（36.8%）で高く、4割近くとなっている。

10代・20代性・年齢別にみると、男性より女性で高いのは「テレビ、ラジオ」（男性29.5%、女性37.0%）、「ポスター」（男性20.5%、女性25.6%）、「パンフレット、リーフレット」（男性11.5%、女性17.9%）などで、「テレビ、ラジオ」は約8ポイントの差がみられた。一方、女性より男性で高いのは「家庭」（男性12.4%、女性9.7%）などとなっている。

10代・20代学職別にみると、「ポスター」を挙げた者の割合は高校生（27.2%）、短大・大学・大学院生（28.5%）で高く、3割近くとなっている。また、高校生では「家庭」（20.5%）を挙げた者の割合が他の層に比べて高くなっている。「受けたことはない」を挙げた者の割合は有職（24.1%）、無職（25.0%）で高く、約4人に1人となっている。

図表 2-2-7-1 学校以外での薬物乱用防止教育・啓発の有無

		(%)									
n		テレビ、ラジオ	ポスター	パンフレット、リーフレット	インターネット	新聞	家庭	本、雑誌	街頭キャンペーン	職場	
〔10代・20代性・年齢別〕											
男性	10代・20代（計）	(410人)	29.5	20.5	11.5	13.4	11.2	12.4	7.3	7.8	5.4
	10代	(202人)	25.7	20.8	12.9	9.9	11.4	16.8	6.4	8.4	4.5
	20代	(208人)	33.2	20.2	10.1	16.8	11.1	8.2	8.2	7.2	6.3
女性	10代・20代（計）	(414人)	37.0	25.6	17.9	12.6	11.6	9.7	8.0	6.5	1.9
	10代	(206人)	35.9	26.7	18.4	9.7	10.2	10.7	5.8	6.8	1.5
	20代	(208人)	38.0	24.5	17.3	15.4	13.0	8.7	10.1	6.3	2.4
〔10代・20代学職別〕											
学 生	（計）	(413人)	34.4	27.4	17.7	12.1	11.6	14.0	8.2	9.2	2.2
	高校生	(195人)	32.3	27.2	20.0	10.8	13.8	20.5	8.7	8.7	2.1
	短大・大学・大学院生	(193人)	37.8	28.5	15.5	14.0	9.8	8.3	8.8	9.8	2.6
	高等専修・専門・予備校生	(25人)	24.0	20.0	16.0	8.0	8.0	8.0	-	8.0	-
有 職 ・ 無 職	（計）	(411人)	32.1	18.7	11.7	13.9	11.2	8.0	7.1	5.1	5.1
	有職	(303人)	30.7	17.8	11.2	13.9	11.2	8.9	6.6	4.6	6.6
	無職	(108人)	36.1	21.3	13.0	13.9	11.1	5.6	8.3	6.5	0.9

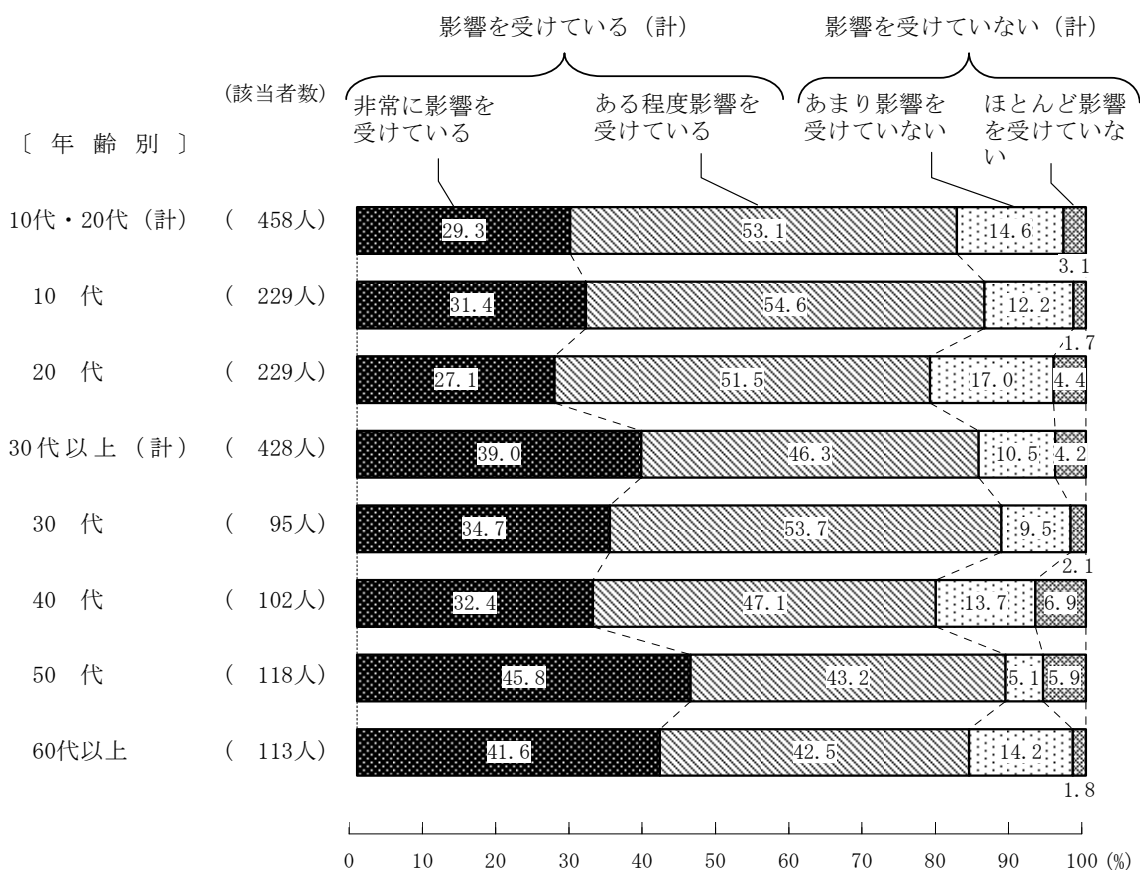
n		自治体や警察などによる講習会	公民館、PTA、自治会などによる講習会	国や地方自治体などの広報誌	薬物乱用防止キャンペーン	保健所、病院、医療機関などによる講習会	その他	受けたことはない	覚えていない・わからない	回答計	
〔10代・20代性・年齢別〕											
男性	10代・20代（計）	(410人)	5.1	3.9	3.4	2.2	1.5	-	21.0	25.6	181.7
	10代	(202人)	5.0	5.0	4.0	2.0	2.0	-	21.3	26.2	182.2
	20代	(208人)	5.3	2.9	2.9	2.4	1.0	-	20.7	25.0	181.3
女性	10代・20代（計）	(414人)	1.9	1.4	1.2	1.9	2.4	0.2	20.8	21.5	182.1
	10代	(206人)	2.4	1.9	1.5	2.4	2.9	-	16.5	23.8	177.2
	20代	(208人)	1.4	1.0	1.0	1.4	1.9	0.5	25.0	19.2	187.0
〔10代・20代学職別〕											
学 生	（計）	(413人)	4.1	3.1	2.4	2.4	2.7	0.2	17.4	23.0	192.3
	高校生	(195人)	2.6	3.6	3.6	2.1	2.6	-	13.8	23.1	195.4
	短大・大学・大学院生	(193人)	5.2	2.6	1.6	2.6	3.1	0.5	20.7	21.2	192.7
	高等専修・専門・予備校生	(25人)	8.0	4.0	-	4.0	-	-	20.0	36.0	164.0
有 職 ・ 無 職	（計）	(411人)	2.9	2.2	2.2	1.7	1.2	-	24.3	24.1	171.5
	有職	(303人)	2.6	2.0	2.0	1.7	0.7	-	24.1	25.1	169.6
	無職	(108人)	3.7	2.8	2.8	1.9	2.8	-	25.0	21.3	176.9



## (2) 学校以外での薬物乱用防止教育・啓発の影響

【Q23は、Q22で1～15をお選びの、学校以外で学んだことがある方にお聞きします。】

Q23. 薬物乱用防止について、学校以外の場で学んだり啓発を受けたことは、あなたの現在の認識や意識に影響を与えていますか。

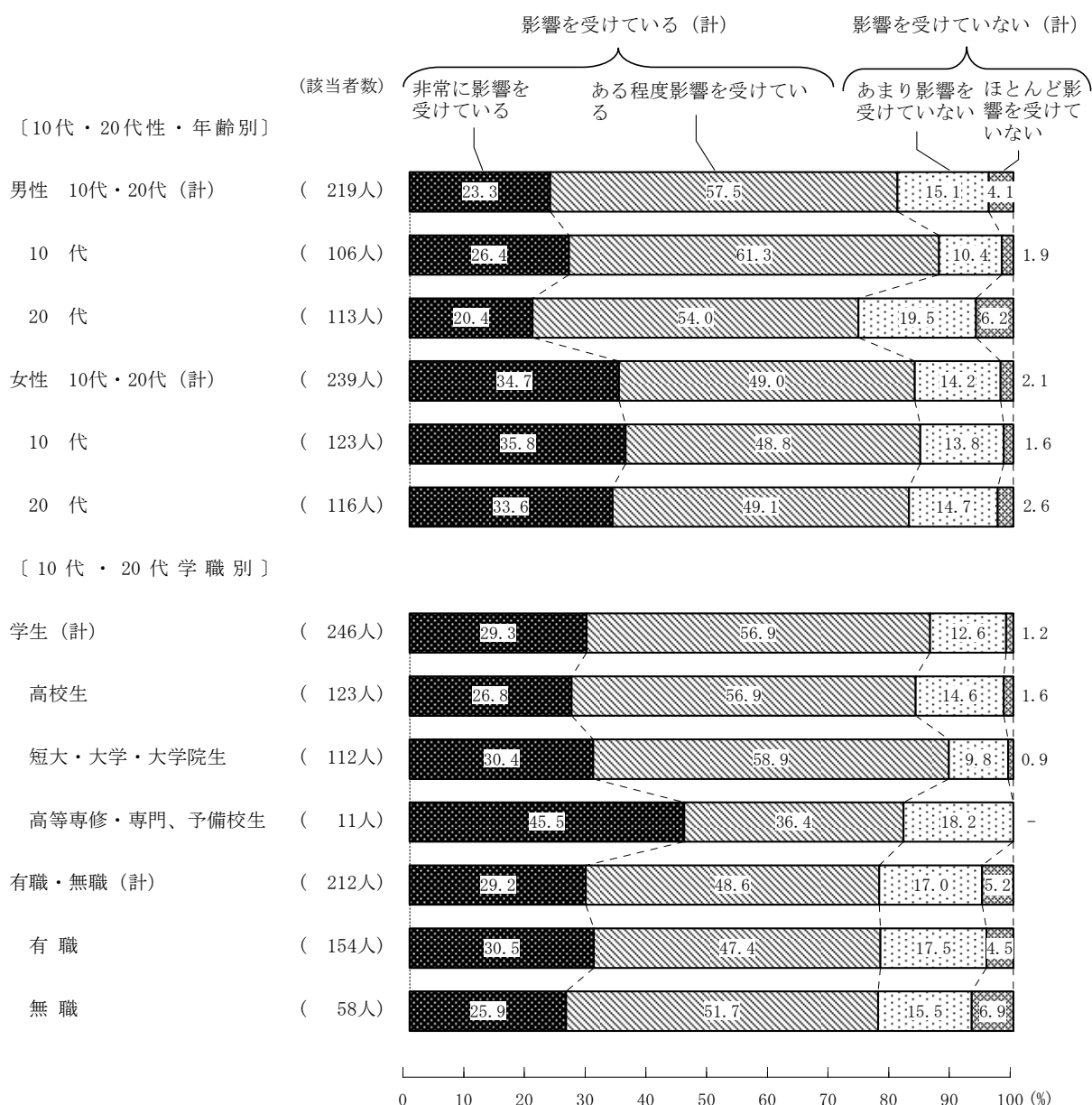


薬物乱用防止について、学校以外の場で学んだり啓発を受けたことは、現在の認識や意識に影響を与えているか聞いたところ、「影響を受けている (計)」 (「非常に影響を受けている」 + 「ある程度影響を受けている」) とする者の割合は10代 (86.0%) と30代以上 (計) (85.3%) では8割以上となっているが、20代 (78.6%) では8割未満で、「影響を受けていない (計)」 (「あまり影響を受けていない」 + 「ほとんど影響を受けていない」) (21.4%) とする者の割合が2割以上となっている。「非常に影響を受けている」と答えた者の割合は30代以上 (計) (39.0%) で高く、約4割となっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「非常に影響を受けている」と答えた者の割合は男性（23.3%）より女性（34.7%）で高く、約11ポイントの差がみられた。「影響を受けていない（計）」とする者の割合は男性20代（25.7%）で高く、約4人に1人となっている。

10代・20代学職別にみると、「影響を受けている（計）」とする者の割合は高校生（83.7%）、短大・大学・大学院生（89.3%）では8割以上となっているが、有職（77.9%）、無職（77.6%）では7割台で、「影響を受けていない（計）」とする者の割合が有職（22.1%）、無職（22.4%）では2割台となっている。

図表 2-2-7-2 学校以外での薬物乱用防止教育・啓発の影響



## 8. 効果的な薬物乱用防止教育

### (1) 薬物乱用防止教育を効果的に行う場や方法

Q24. 薬物乱用防止教育を効果的に行うには、どのような場や方法で行うのが有効だと思いますか。次の教育や啓発の場や方法のうち、あなたが特に有効だと思うものを3つまでお選びください。(3つまで選択可)

(%)

n		高等学校までの学校教育	家庭教育	新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの各種メディアを活用した啓発や教育	短大・大学での教育や啓発	行政や警察による教育や啓発	保健所、病院、医療機関などによる教育や啓発	の教育や啓発における関係機関の連携
[ 年齢別 ]								
10代・20代 (計)	( 824人)	76.0	40.2	39.0	23.4	19.8	10.9	8.9
10代	( 408人)	79.2	37.3	35.5	23.8	19.6	9.3	8.6
20代	( 416人)	72.8	43.0	42.3	23.1	20.0	12.5	9.1
30代以上 (計)	( 825人)	74.2	55.5	51.4	14.8	21.0	12.6	13.3
30代	( 207人)	75.8	52.2	49.3	15.5	20.8	12.1	9.2
40代	( 208人)	75.5	58.7	47.6	13.5	18.3	11.5	10.1
50代	( 206人)	69.4	50.0	53.4	16.5	25.2	12.6	18.0
60代以上	( 204人)	76.0	61.3	55.4	13.7	19.6	14.2	16.2

n		職場での教育や啓発	パンフレットやリーフレットなどを活用した啓発や教育	公民館、PTA、自治会などによる地域での教育や啓発	その他	特にない	わからない	回答計
[ 年齢別 ]								
10代・20代 (計)	( 824人)	6.7	5.2	2.5	0.7	2.9	5.0	241.1
10代	( 408人)	6.6	5.1	3.4	0.2	2.7	5.1	236.5
20代	( 416人)	6.7	5.3	1.7	1.2	3.1	4.8	245.7
30代以上 (計)	( 825人)	7.0	4.1	4.0	1.0	1.1	2.5	262.5
30代	( 207人)	6.3	3.4	1.4	1.4	1.9	3.4	252.7
40代	( 208人)	8.7	4.3	2.4	0.5	1.4	1.9	254.3
50代	( 206人)	6.8	4.9	5.3	1.0	1.0	2.4	266.5
60代以上	( 204人)	6.4	3.9	6.9	1.0	-	2.5	277.0

薬物乱用防止教育を効果的に行うには、どのような場や方法で行うのが有効だと思うか聞いたところ、10代、20代、30代以上（計）ともに「高等学校までの学校教育」（10代 79.2%、20代 72.8%、30代以上（計） 74.2%）を挙げた者の割合が最も高く、7割以上となっている。次いで、「家庭教育」（10代 37.3%、20代 43.0%、30代以上（計） 55.5%）、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの各種メディアを活用した啓発や教育」（10代 35.5%、20代 42.3%、30代以上（計） 51.4%）が挙げられ、30代以上（計）で割合が高く、5割以上となっている。

10代・20代性・年齢別にみると、男性より女性で高いのは「高等学校までの学校教育」（男性70.7%、女性81.2%）、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの各種メディアを活用した啓発や教育」（男性31.7%、女性46.1%）、「短大・大学での教育や啓発」（男性20.0%、女性26.8%）などで、それぞれ、約11ポイント、14ポイント、7ポイントの差がみられた。女性より男性で高いのは「家庭教育」（男性42.4%、女性37.9%）などとなっている。

10代・20代学職別にみると、「家庭教育」を挙げた者の割合は高校生（42.1%）、有職（40.3%）、無職（44.4%）では4割台となっているが、短大・大学・大学院生（36.8%）では4割未満となっている。「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの各種メディアを活用した啓発や教育」を挙げた者の割合は短大・大学・大学院生（43.0%）、無職（44.4%）で高く、4割以上となっている。

図表 2-2-8-1 薬物乱用防止教育を効果的に行う場や方法

		(%)							
n		高等学校までの学	家庭教育	新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの各種メディアを活用した啓発や教育	短大・大学での教育や啓発	行政や警察による教育や啓発	保健所、病院、医療機関などによる啓発	教育や啓発の連携	
〔10代・20代性・年齢別〕									
男性 10代・20代（計）	( 410人)	70.7	42.4	31.7	20.0	20.2	11.0	8.8	
10代	( 202人)	75.2	40.6	28.2	19.3	25.2	8.4	9.4	
20代	( 208人)	66.3	44.2	35.1	20.7	15.4	13.5	8.2	
女性 10代・20代（計）	( 414人)	81.2	37.9	46.1	26.8	19.3	10.9	8.9	
10代	( 206人)	83.0	34.0	42.7	28.2	14.1	10.2	7.8	
20代	( 208人)	79.3	41.8	49.5	25.5	24.5	11.5	10.1	
〔10代・20代学職別〕									
学 生（計）	( 413人)	80.4	39.0	38.0	25.4	20.6	10.4	8.0	
高校生	( 195人)	84.6	42.1	34.9	21.5	20.5	11.8	8.2	
短大・大学・大学院生	( 193人)	77.2	36.8	43.0	26.9	20.7	9.3	6.7	
高等専修・専門・予備校生	( 25人)	72.0	32.0	24.0	44.0	20.0	8.0	16.0	
有 職・無 職（計）	( 411人)	71.5	41.4	39.9	21.4	19.0	11.4	9.7	
有職	( 303人)	72.6	40.3	38.3	21.1	16.8	12.5	8.3	
無職	( 108人)	68.5	44.4	44.4	22.2	25.0	8.3	13.9	

n		職場での教育や啓	パンフレットなどや教育を活用した啓発や	地域公民館、PTA、自治会などの教育や啓	その他	特にな	わからない	回答計
〔10代・20代性・年齢別〕								
男性 10代・20代（計）	( 410人)	5.9	4.6	2.7	1.0	4.1	6.1	229.3
10代	( 202人)	4.5	4.5	4.0	0.5	4.5	5.0	229.2
20代	( 208人)	7.2	4.8	1.4	1.4	3.8	7.2	229.3
女性 10代・20代（計）	( 414人)	7.5	5.8	2.4	0.5	1.7	3.9	252.9
10代	( 206人)	8.7	5.8	2.9	-	1.0	5.3	243.7
20代	( 208人)	6.3	5.8	1.9	1.0	2.4	2.4	262.0
〔10代・20代学職別〕								
学 生（計）	( 413人)	6.5	5.3	3.1	0.7	1.9	3.6	243.1
高校生	( 195人)	5.6	6.7	2.1	0.5	2.1	1.5	242.1
短大・大学・大学院生	( 193人)	6.7	4.7	2.6	1.0	2.1	5.2	243.0
高等専修・専門・予備校生	( 25人)	12.0	-	16.0	-	-	8.0	252.0
有 職・無 職（計）	( 411人)	6.8	5.1	1.9	0.7	3.9	6.3	239.2
有職	( 303人)	7.6	5.6	1.0	0.7	3.6	6.3	234.7
無職	( 108人)	4.6	3.7	4.6	0.9	4.6	6.5	251.9